

◎「教育フォーラム2023」の開催報告について

1 開催趣旨

外国につながるのある子どもたちの支援について、学校、家庭、地域が一緒に考え、意見を交換する。

2 日時、場所

令和5年5月28日（日）9時30分～12時30分、総合福祉会館5階ホール

3 来場者

計90人（参加者67人・見学者23人）

区分	内訳	人数
参加者	ファシリテーター（関東学院大学法学部教授・牧瀬 稔氏）	1人
	ラウンドテーブル討論者	4人
	中学生（追浜中学校生徒会）	6人
	高校生（横須賀総合高校7、三浦学苑高校6、緑ヶ丘女子高校1）	14人
	大学生（関東学院大学法学部・牧瀬ゼミ）	19人
	保護者	7人
	教員（小学校6、中学校2、横須賀総合高校1、指導主事3）	12人
	関係者（日本語支援ステーション）	2人
	公募市民（広報よこすか）	2人
見学者	教員9、教育委員4、市議会議員3、広報課1、事務局6	23人

4 開催内容

事務局による概要説明（横須賀市の現状、日本語支援ステーションの動画紹介）の後、ファシリテーターの進行により以下のとおり開催した。

[第1部] ラウンドテーブル形式の討論・意見交換（9時30分～11時）

- 討論者
 - ・土山豊 氏（横須賀総合高校の卒業生）
 - ・山口忠士 氏（浦賀中学校総括教諭）
 - ・西之原愛子 氏（日本語指導員）
 - ・平塚淑江 氏（前 国際教育コーディネーター、日本語指導員）
- テーマ 「実際に関わる中で感じること、伝えたいこと、求められること」

○討論者の主な発言

土山氏	<ul style="list-style-type: none"> ・来日時は「元気ですか」しか知らず、通訳がないと不安だった。 ・横須賀総合高校在籍時は、外国の方がいたことや日本語指導もあり、ありがたく楽しい学生生活を送ることができた。 ・日本語と母国語の2言語が使えるようになり良かったと思う。
山口氏	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の教員が外国籍の子どもを受け持つと、互いの母語が分からないため、試行錯誤して支援や指導に取り組んだ。 ・困っている生徒をクラス全体で助けるため、最終的には温かい雰囲気クラスのクラスになると感じた。 ・部活動では言語を超えたスポーツの意義を知ることができ、大きな財産となると思う。
西之原氏	<ul style="list-style-type: none"> ・出会った人で人生が変わる、人との出会いは大事である。 ・日本人でも外国人でもない中間層にいるため、周りとは違う自分を好きになることが大切である。 ・子どもの性格や生活の状況によって、気持ちを落ち着かせ安心させてから学習に入るとよいと思う。
平塚氏	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の子どもは、日本に来て今までできていたことができなくなる。友人や授業も異なるため、意気消沈してしまう。 ・植物が、育ってきた土壌から抜かれ、根も葉も傷ついている状態と同じ。「あなたは大切な存在です」と伝えることが大切である。 ・みんなで一人を囲んで育て、つないで広げるということを大切にしてきた。

○参加者との意見交換（主なテーマ）

「支援する側のアプローチの仕方」「子ども同士の助け合いエピソード」

【第2部】ワールドカフェ形式の意見交換（11時～12時30分）

- テーマ
 - ・第1ラウンド「外国につながるのある子どもと自分との関わりは？」
 - ・第2ラウンド「目指す姿とのギャップ、今はどう？どうなるとよい？」
 - ・第3ラウンド「(振り返り) 私たちには、どんなことができる？」
- 総括1 テーブルホスト担当の大学生による「まとめの言葉」(テーブル①～⑩)
 - ①自然体で受け入れ、優しく簡単な単語を使い、自分からアプローチ
 - ②次世代には、分け隔てなく取れるコミュニケーションを
 - ③やさしい日本語を使う、お祭りに参加するなど入りやすい環境づくりは必要
 - ④フレンドリーな関わり方が大切。言語への興味が授業での教え合いに広がる
 - ⑤交流イベントの開催など、安心感を与える場所づくりが必要
 - ⑥校門でのあいさつ言葉を日によって変える取り組みのアイデアも
 - ⑦外国人向けの教材整備、国際教室の全校配置、話しやすい環境づくりが理想
 - ⑧外遊びに言葉はいらない
 - ⑨積極的に話しかける、討論への参加など文化交流の場を設けることが大切
 - ⑩地域・家庭・学校のコミュニティとしてのつながりが大切

○総括2 ファシリテーターによるワールドカフェ全体の総括

- ・ 3つの「共」にまとめられる。一番は「共有（ワークショップなどの情報共有など）」、2番は「共感（ともに感じる）」、最後に「共創（ともにつくる）」。行政は、いきなり「共創」に取り組んでいるように見える。
- ・ 本日のフォーラムのように共有から共感、共創につながっていけばいいと思う。

5 来場者の感想・意見等（Google formによるウェブ回答、5月31日時点）

○回答者 47人（参加者34人、見学者13人）

○区分 中学生2人、高校生8人、大学生11人、保護者6人、教員13人、その他7人

○感想 とても良かった 30人（63.8%）

良かった 17人（36.2%）

○自由コメント（主なもの）

- ・ さまざまな年代や立場の人と意見交換できる機会だった。（11人）
- ・ 当事者の話を聞くことができて良かった。（8人）
- ・ 「外国につながる子どもたち」について学び考えることができた。（6人）
- ・ もう少し時間が欲しかった。（3人）
- ・ 違う視点の意見を聞くことができ、気づきが多かった。（2人）
- ・ 若い人たちの議論や意見を知ることができた。（2人）
- ・ テーブルホストの大学生の進行がわかりやすくスムーズだった。
- ・ 子どもが学校に通う大切さを再認識できた。

